

■ 県内分布

日本海側、瀬戸内海の他の海域には比較的ふつうにみられる。

■ 国内分布

本州、四国、九州（三陸沿岸と四国、九州の南部を除く）

■ 選定理由

人為性		特殊性		学術性	
生育環境破壊		特殊生育環境		特殊な分布	
観賞用等採取		特異な生態		分布の限界	
				希少	○

■ 特記事項

この海域では以前は比較的普通に見られたが、最近はまれにしか産しない。

■ 保護上の留意点

－

■ 種の概要

体は1-2mの長さになることが多く、ときには5mもなる個体も存在する。付着器は仮盤状で直径2cmになる。茎は1cmまでの高さになり分枝しない。茎の頂端部から数本の主枝をらせん配列に生ずる。主枝は3稜形をしていて、太さ3-4mmで、しばしばねじれている。側枝も多数よく発達する。主枝の下部に生ずる葉は基部が反曲し、楕円形から披針形であり、長さ3-4cm、幅1cmで頂端は円く、縁辺には浅い鋸歯がある。葉柄は短く、それに続く中肋は基部近くでわずかな隆起として認められるだけである。雌雄異株。冬から春に成熟する。